

群馬県立高崎高等学校(全日制)学校評価一覧表②(令和3年度版)

(様式2)

評価対象	評価項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題	
		①	②	総合				
I 3F精神に根ざす活力ある高生を育成し、活気にあふれた特色ある学校づくりに努めていますか。(全体・生徒部)	1 生活規律を確立する。	① 各学期1回挨拶週間を設定する。 ② 式典時の服装意識の向上やチャイムスタートを徹底する。 ③ SNSに関わるトラブルを無くす。	A B B	B B B	B B B	職員による年間を通しての登校時挨拶運動に加えて、生徒会生徒による取り組みも有効であった。SNSについては情報モラル講習会を行ったが、数件トラブルが発生した。	SNSの怖いところはいつでも誰かとながっていることである。情報リテラシー教育のより一層の充実をお願いしたい。	職員と生徒が連携して継続的な取り組みを実施していく。効果的な情報モラル講習会を開催するとともに、規範意識を高められるよう定期的に呼びかけていく。
	2 交通安全を推進する。	④ 自転車重大事故0件。 ⑤ 職員・生徒で定期的に交通安全指導を行う。 ⑥ 駐輪場でのトラブルを無くす。	B A B	A A A	A A B	現地での指導や集会等で実際の映像をもとに全体指導を行うことは効果的であった。新入生への指導が例年より遅くなってしまった。	ヘルメット着用モデル校、とても良い取組である。他校の模範となれるように頑張ってもらいたい。	現地指導や具体的な事案をもとに映像等を使用して指導していく。新入生には授業等で丁寧に指導していく。
	3 教育相談業務を充実させる。	⑦ 定期的に教育相談・生徒部会議を実施し、合わせてSC等を有効活用するためのマネジメントを教育相談係を中心に行う。 ⑧ いじめの発生防止に努め、発生した場合は組織的に対応して100%解消する。	A A	A A	A A	該当生徒に関係する教諭が組織的に迅速に対応し、解決に結びつけることができた。	勉強だけでなく部活動や行事の充実が生徒の心の安定や人間的成長に重要である。きめ細やかな対応をお願いしたい。	組織として対応できるよう関係職員とは連携を密にし、情報共有を図る。事案に対し当該生徒だけでなくその保護者に対しても丁寧に対応していく。
	4 生徒会活動を充実させる。	⑨ 定期戦75回大会の勝利・翠巒祭の成功。 ⑩ 部活動加入率の増加・高校総体優勝。上位大会への出場数を増やす。 ⑪ 地域の清掃活動や社会に貢献できるボランティア活動に取り組む。	A A B	A A C	A A C	今年度もコロナ禍での対応がほとんどであり、通常開催ができないことが多かったが、生徒に対し主体的に取り組ませることができた。コロナ禍であり、地域社会とのかわりを持つ機会をつくれなかった。	定期戦の煮えたぎる体験は貴重である。コロナ禍でも対策を徹底した上で大きな学校行事を実施できていることは評価できる。生徒には高生活の醍醐味を味わえたい。	行事においてはコロナ禍の対応も考慮しながら生徒が主体的に取り組めるよう指導していく。部活についても感染対策を踏まえた上で活動し、結果(競技力の向上等)に結びつけられるよう工夫する。
II 健康と安全への理解を深め、学習環境と教育設備の整備に努めていますか。(保健環境部・事務部)	5 健康な身体と健全な精神を育成するため、自主的・積極的に心身を鍛えることができる資質・能力を養	⑫ 「保健だより」を毎月発行する。 ⑬ 家庭に向けての受診の呼びかけを強化する。	A B	B B	B B	「保健だより」の発行が不定期になってしまった。コロナ関連の情報については、適宜発信することができたと思う。	感染対策を呼びかけることで、感染者を出さずに大きな学校行事が実施できている。	健康関連情報の更なる発信を目標に、「保健だより」の定期的な発行を目指す。
	6 健康的で落ち着いた集団生活を維持するために、安全で衛生的、かつ快適な学習環境を整備する。	⑭ 保健委員による校内巡視を毎月実施する。 ⑮ 学習環境が快適であると感じている生徒が80%以上である。	B A	A A	A A	職員及び生徒による校内巡視は必要に応じて実施できた。学習環境についても、必要な点検・整備をその都度行った。	-	定期的に校内巡視を実施し、快適な学習環境の整備に努める。
	7 校内美化の推進及びゴミの分別・減量を徹底する。	⑯ ゴミの分別を徹底する。	B	B	B	今年度は、ゴミの持ち帰りを強く呼びかけることで、ゴミ分別の徹底を図ってきた。	SDGsの視点をつけさせるのはこうした日々の取組が重要で評価できる。	引き続きゴミの持ち帰り、及びゴミの分別を徹底する。
	8 防災意識を高める。	⑰ 訓練時の行動に関する生徒の自己評価が90%以上である。	B	A	A	災害に対する危機意識は高く、訓練にも真剣に取り組む様子が見られた。	危機管理体制はしっかりと整っている。	危機意識を常に持ち、定期的に訓練を実施する。
III PTA・同窓会・地域と連携し、本校の教育活動を発展させていますか。(広報渉外部)	9 PTAから信頼される学校を目指す。	⑱ PTA総会の出席率が60%を超える。 ⑲ 学年保護者会に出席率が90%を超える。	B B	A B	B B	PTA総会は、書面評決になり、84%の返信があった。保護者集会は3年の出席率が88%であった。	先生方の頑張っている様子が伝わってきて感謝している。	PTA総会は2年続けて書面表決となった。来年度の実施方法について検討していく必要がある。
	10 同窓会から大いに支援される学校を目指す。	⑳ 同窓会新年総会、常任理事会、理事会で毎回現況を報告する。 ㉑ 「先輩教えてください！」を40以上の事業で行うとともに、内容の充実・発展に努める。	A A	A A	A A	同窓会理事会等で、双方向のやりとりが行えた。 「先輩教えてください！」は41以上の事業所で実施して頂き、文部科学大臣表彰ももらった。	「先輩教えてください！」事業について、事後に全体の事業所の実施内容を生徒間で共有したり、各事業所に水平展開できると次年度にもつながると思う。	「先輩教えてください！」は安定して実施できているが、マンネリ化しないよう内容を再確認していく。
	11 地域から信頼される学校を目指す。	㉒ 「翠巒セミナー」に地域の方々の5人以上の参加を実現するとともに、内容の充実・発展に努める。	B	A	A	翠巒セミナーは中止となった。	-	翠巒セミナーの実施方法をオンラインを含め、検討していく必要がある。
	12 情報管理を徹底した上で、情報モラル、セキュリティの意識向上を図るとともに、Webページを随時更新することで地域に向けて積極的に情報を発信する。	㉓ 職員の情報モラル、情報セキュリティの意識向上を図る。 ㉔ 常にWebページを最新の情報に保つ。	A A	A A	A A	・校内PCは教育センターが一括管理してことに加え、職員へアンケートを実施して意識の向上を図った。 ・新型コロナウイルスに関わる緊急連絡などは素早くWebページへ掲載し、情報発信することができた。	他の学校のモデルとなる素晴らしい取組を積極的に発信してほしい。さらに、SDGsへの取組を発信できるとよい。	・Chromebookの配布も完了して一人一台端末の環境が整ったので、より一層の注意喚起に努める。 ・Webページを常に最新の状態に保つ。
IV 質が高く、内容が豊かな「力がつく授業」を展開し、学力を向上させていますか。(教務部)	13 適切に授業時間を確保し、力がつく教育課程を編成し実施する。	㉕ 臨時時間割の、行事前の日程に余裕を持った提示と、入替の、年間行事予定表への記載。新学習指導要領に対応する教育課程の最終調整と授業時間割を確定する。	A	A	A	職員アンケートでは授業時間確保に努力していると感じるが、強く感じているとある程度感じているで100%であった。令和4年度入学生の教育課程を順調に実施したい。	勉強と行事のメリハリがしっかりとつけられており、密度の濃い授業が実施されている。	60分授業やカセット授業の順調な実施を心がけ、実施形態をさらに研究したい。
	14 校内諸活動計画の調整を行う。	㉖ 調整ミスによる直前の計画変更や、当日の中止といった事態を起こさないこと。	A	A	A	各分掌・各学年との連絡は継続して密にしている。	-	授業時間を適切に管理していきたい。校内の連携のみでなく、校外の関係部署とも連絡を密にする。
	15 教員個々及び集団としての教科指導力の向上と授業改善を推進する。	㉗ 教員1人あたり年2回以上実施し、クロスカリキュラムは1回実施する。 ㉘ 新しいシラバスを評価する生徒が80%以上である。	B A	B A	B A	授業改善についてはクロスカリキュラムの実施かクロムブックを使用している授業かを行った。高い志を育成し、学ぶ意欲を知り、自ら学ぶ生徒を育てていると感じるが94%であった。シラバスの満足度は、第1回大変満足、ある程度満足で100%、第2回が96%と高い。	クロスカリキュラム等、工夫されているのが良い。他の教員の授業参観と授業研究会を毎回行うことで先生方の指導力が向上しているのがよくわかる。	SSH部からのアドバイスもらい、より洗練されたクロスカリキュラムを推進したい。シラバスは、読み応えのある内容になっている。
	16 成績処理・各種教務関係書類作成等の事務を正確かつ適正に実行する。	㉙ 教務部の係ごとの打合せ回数を増やす。	A	A	A	教務関係の業務分担を確認し、書類等のチェック機能を強化している。	-	情報課と連携し、成績処理等のマニュアルをさらに見直しミスを防ぎたい。教務部の業務分担を見直し、係主導體制を確立したい。

群馬県立高崎高等学校(全日制)学校評価一覧表②(令和3年度版)

(様式2)

評価対象	評価項目	具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
			①	②	総合			
V 3年間を見通したキャリア教育を推進し、進路目標を達成した上で、自己実現を図っていますか。(進路部)	17 高い志を育成し、学ぶ意味を知り、自ら学ぶ生徒を育てる。	⑳ 学習時間の増加 部で活動中：平日最低2.5時間 部活引退後：平日最低3.5時間 ㉑ 1年次：志の明確化 2年次：学部・学科の明確化と志望大学の決定 3年次：受験大学の確定 ㉒ 志と夢の明確化とそれを叶えるための具体的道筋の理解 ㉓ 自己肯定感を高め、夢を叶えるために自ら学習に取り組む。	A	B	A	生徒は多忙な中、学習時間の確保に努めている様子が見られる。また、学年毎に進路を考えさせる時間をある程度確保することができた。	科学リテラシー講座は生徒の興味関心を高める良い機会である。高校時代は基礎基本を高めることが大切で、色々なことを経験して将来に生かしてほしい。勉強だけでなく、社会との繋がりを意識させ、将来どうしたら社会に貢献できるのかを考えさせることが重要である。	ただただ「学習時間を確保せよ」では、学習時間は増えない。SSH活動と連携したり、学ぶ意味を伝えながら、大学進学を含めた進路への志を明確にすることが重要であろう。そのため、学年全体としては進路行事や、進路を考えさせる時間を確保することで、個別としては面談を充実させることで、さらなる工場を図りたい。
	18 学力・進学実績の向上を達成する。	㉔ 年間授業観察5回、授業アンケート平均点の向上。 ㉕ 模試の成績向上 1年次：英数国総合ベネッセ偏差値 65 2年次：英数国総合ベネッセ偏差値 65 3年次：英数国総合ベネッセ偏差値 62 ㉖ 教師・生徒の信頼関係の向上と模試の成績向上。シラバスの利用率100%。	A	A	A	オンライン授業がある時期があるなど、授業が難しい1年だったが、生徒が授業に向かおうという姿勢は継続できている。数値目標という意味では物足りない部分があるが、その姿勢を貫けば、必ずと結果はついてくると思うので、継続させていく。	オンライン授業が昨年と比べて非常に進化している。リモートでも緊張感をもって授業を受けることができている。コロナ対応としてだけでなく積極的な活用も期待したい。	各学年とも、学年の教科内、あるいは他教科間での方針確認が頻繁にできていたように感じる。生徒にある程度の負荷をかけることは必要だが、行き過ぎると疲弊してしまうので、上手にバランスを取るという方針を、進路部と学年が連携して行っていきたい。
VI SSH事業を効果的に運営して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を育成していますか。(SSH部)	19 課題研究やクロスカリキュラムは全職員体制で取り組む。	㉗ クロスカリキュラムの実践事例が24事例以上。 ㉘ 教材開発・授業検討を含めて、クロスカリキュラムの取り組みをしたことのある教員が80%以上。	B	A	A	・年間では24事例を実践することができた。 ・職員の70%以上がクロスカリキュラムの実践を実施できた。	クロスカリキュラムは非常に興味深い。生徒にとって、学問の横のつながりを意識できる良い機会である。	少しずつクロスカリキュラムが浸透してきている。来年度はクロスカリキュラムのテーマの内容・授業の展開に目を向けていきたい。
	20 サイエンス・プロジェクトⅠ・Ⅱβ・ⅢにおいてR-PDCAサイクルを実践する中で課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度の基盤を主として育成する。	㉙ 職員間で具体的に育成すべき生徒像や課題研究の指導方法を共有できている状態で課題研究Ⅰ・Ⅱβ・Ⅲの指導に職員があたる。 ㉚ 1学年及び2学年全体で実施の課題研究終了時にR-PDCAサイクルの一連の流れを経験している生徒が80%以上である。 3学年全体で研究ポートフォリオの作成を通して、探究の手法を整理できた生徒が70%以上である。	A	A	A	・年間を通じて第1学年～第3学年まで、打合せ会議や学習指導案を通じて実践内容の共有を継続できた。 ・1月27日の段階でR-PDCAサイクルの一連の流れを経験しているグループが80%以上と考えられ、生徒としても経験できたと考える。 3学年全体で研究ポートフォリオの作成をできた生徒が90%以上である。	課題研究の内容は今後期待できるものである。	課題研究の一連の流れを経験させることができるようになったが、2学年の社会課題の課題研究において、半期毎に別々のR-PDCAサイクルが回っているような状況である。年間を通じた課題研究としてR-PDCAサイクルが実践できるようなシステムを構築し、実践していきたい。
	21 SSHクラスのサイエンス・プロジェクトⅡα・Ⅲにおいて、理数分野のR-PDCAサイクルを実践することで、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を深化させる。	㉛ SSHクラスの90%が3学年の課題研究終了時にR-PDCAサイクルを一巡できている。 ㉜ 統計学や数理モデルの考え方を活用した課題研究を行う生徒が全体の60%のグループで現れている。	B	A	A	・R-PDCAサイクルを一巡することはできていると考えられる。 ・統計学を活用するグループは少ないが、数理モデルの考え方を活用するグループは全グループが実践できた。	-	・統計学の活用は自身のデータに対して具体的な事例があると活用できるようになる可能性がある。今後はデータが取得する段階でどんな統計の活用事例が考えられるのかを指導できる体制をつくっていきたい。
	22 スーパーサイエンス部の活動を一層普及させ、科学に対する興味関心を向上させるとともに自己実現に向けて主体的に学ぶ態度を育成する。	㉝ SSH事業の課外活動に対してSSH事業の課外講座に100名程度の生徒が参加できるようにする。	A	A	A	・スーパーサイエンス部として各種課外活動を実施し、通算で100名の参加が見込めた。	群馬イノベーションアワードの各賞受賞者は大したものである。今後にも期待したい。	・今後も継続して、オンライン実施と体験型実施を併用して、学年とも連携して周知する体制を継続していきたい。
VII 読書習慣を形成し、図書館活用の活性化を図っていますか。(広報渉外部)	23 生徒の読書習慣を早期に育成する。	㉞ 貸出冊数が2000冊を超える。 ㉟ 月平均300人以上が図書館を利用する。	A	A	B	・貸出数は目標に達した。月毎の来館者数は分散登校もあり、増えなかった。	なるべく図書館を利用させ、ネットの偏った情報だけでなく、書籍や新聞からの広い情報を入手させたい。OBの本棚のような企画も提案したい。	・特定の生徒に偏った貸出ではなく、高崎高校の読書人口の裾野を広げる。
	24 図書館利用の活性化と蔵書管理を徹底する。	㊱ 多読者・多読クラスへの表彰。 ㊲ ビブリオバトル県大会優勝。	B	B	B	・多読者や多読クラスは告知にとどめたが、生徒への影響力・刺激にはなつたと考える。	-	・ビブリオバトル県大会で高崎高校らしいプレゼンを披露する。
	25 図書委員会の活動を充実させる。	㊳ 「図書館便り」の月1回発行。	A	A	A	月1回のペースは乱れることもあったが、生徒作成のコンセプトは徹底できた。	-	・読まれる、読みたくなる「図書館便り」をつくる。
	26 SSH課題研究論文の作成を支援する。	㊴ SSH関連図書100冊以上収蔵する。	B	B	B	SSH関連の蔵書は年々増え、更に充実してきている。	-	・ネット情報には書物の確かさを、様々な場面で訴え続ける。
VIII 教育のデジタル化に努めていますか。(情報課)	27 ICTを活用した指導を行っていますか。	㊵ ICT端末を用いた授業が80%以上である。 ㊶ ICTを活用した授業に生徒の80%以上が満足している。	B	B	B	・クロスカリキュラムの一環としてICT端末を利用した授業も取り入れている。 ・概ね満足している。	デジタル時代の新しい道具の使い方とともに時間の使い方や学ばせたい。ICT導入で変化が大きいですが、バランスを取ることが重要であろう。	・次年度もICT端末の活用を推進していく。 ・生徒への具体的なアンケートの実施を計画する。
	28 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㊷ オンラインによるアンケートを年3回以上実施している。 ㊸ オンラインによる通知の割合が50%以上である。	A	A	A	・学校評価や授業のアンケートを年3回行った。 ・生徒への連絡などで活用できた。	様々な取組で先生方の仕事が増えてしまう。DX等を活用して仕事量の軽減をはかっていただきたい。	・次年度も継続していく。